

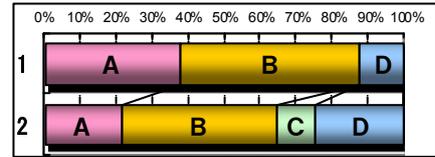
「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例

校種	小学校	【行田市教育委員会】
----	-----	------------

〈「分析支援プログラム」の活用〉クロス集計より

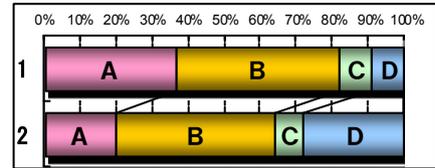
① 予習・復習と成績階層

- ・縦軸：ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（予習や復習をする）
- ・横軸：算数の《知識・理解》の成績階層
縦軸が「はい」の児童は、「いいえ」の児童より成績上位者が多い。（Aは15%、A+Bでは23%）



② 試験の振り返りと成績階層

- ・縦軸：ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（試験でできなかったところを確かめる）
- ・横軸：算数の《知識・理解》の成績階層
縦軸が「はい」の児童は、「いいえ」の児童より成績上位者が多い。（Aは16%、A+Bでは18%）



※家庭学習を習慣化し、予習・復習を中心に行ったり、試験でできなかったところを確かめたりすることで学習内容の定着が図れる。

〈具体的な取組〉

1 家庭学習における予習・復習への取組

- ① 家庭学習の習慣化を図るための生活習慣の見直し・改善
本校では、宿題はやるものの自主的に家庭学習を行う児童は少なかった。また、高学年では宿題として自主学習を位置付けていたが、その学習内容や量に個人差が目立っていた。こうした実態を踏まえ、昨年12月の地区懇談会において、家庭における生活が学校での生活態度や学習にも影響することを保護者に伝え、家庭学習の習慣化や家庭での生活習慣の見直しを依頼した。
- ② 担任から家庭・児童への働きかけ
学年・学級だよりを通して、保護者に家庭学習の習慣化の重要性を伝え、家庭の協力を得ながら、児童に予習・復習を取り組ませた。また、家庭学習の取り組み方などをチェックシートに記入させ、一定期間調べたあとに状況に応じて個々の改善を図った。
- ③ すずかけタイム（朝自習）の活用
自ら学習する習慣を身に付けるため、毎週補習の時間（20分）を確保している。



すずかけタイム

2 基礎・基本を定着させるためのテストへの取組

- ① 授業時におけるミニテスト（確認テスト）の実施
昨年度、「基礎・基本の確実な定着と学習過程の工夫改善 ～3つの達成目標の推進を通して～」を研究主題として、校内研修を進めてきた。児童に基礎・基本の確実な定着を図るためには、他学年における学習内容にも目を向けて系統性を知るとともに、各単元・時間における学習目標を明確にした授業を行う必要がある。その上で、各単元・時間において身に付けるべき内容をミニテスト（確認テスト）として実施し、児童の理解の把握と学習内容の定着に努めてきた。
- ② 50問計算・漢字テストの実施
本校では、学期ごとに50問計算・漢字テストを実施し、各学年において学習する漢字や計算の定着を図っている。45問以上の正解で合格となるが、合格しない場合は再テストを実施する。全学年による実施のため児童の意識が高く、テストに向け、進んで漢字練習や計算練習を行ってくる。また、担任は模擬テスト問題を作成して実施したり、計画的にテスト範囲の漢字や計算練習を家庭学習として取り組ませたりして、児童が繰り返し学習できるよう工夫している。何度も同じ内容を行うことで、全員ができるようになる。

A table with columns for '学年' (Grade), '合格者数' (Number of Passes), '不合格者数' (Number of Failures), and '再テスト実施数' (Number of Retests). The rows list grades from 1st to 6th. The table shows that in all grades, the number of passes is significantly higher than the number of failures, and the number of retests is low.

50問漢字テスト

〈取組の成果〉

23年度は、国語・算数ともに「知識・理解」の観点は、学校平均が県平均を下回っていた。全校で家庭学習の習慣化に取り組んだ結果、24年度の「知識・理解」の観点は、国語が2.2ポイント、算数が2.9ポイント、学校平均が県平均を上回ることができた。